

ラオスの 子ども通信



68号
2017年2月発行

発行：(認定)特定非営利活動法人 ラオスの子ども

- たくさんの本を届けたい! ▶ p.1
- はじめる・つながる・つくりだす [2016.8-2016.12] ▶ p.2
- 「ラオスの子ども」の仲間たち ▶ p.4
- メコンのほとり「糸」 ▶ p.4



*写真の説明はp.4をご覧ください。

たくさんの本を届けたい!

ラオス駐在の政岡スタッフによる、子どもと本の現地レポート。
今回は双子のチュン君とチェン君の学校と家を訪問しました。

経済発展の一方で

今、ラオスでは、首都ヴィエンチャンは高層ビルの建設ラッシュ。その一方で、学校では今も教科書が一人に一冊行き渡っていません。急激な経済発展と子どもたちを取り巻く現実のギャップにしばしば頭がクラクラします。教科書ですらこの状態なので、教科書以外の本はもっと限られています。



いつもひょうきんなチュン君とチェン君。学校の図書室で。

図書室ができた

「ラオスの子ども」は学校図書室の開設支援に力を入れています。図書室ができた学校を訪ねると、初めて教科書以外の本に出会い、本が好きになった子どもたちがいます。中等学校3年生のチュン君とチェン君の双子の兄弟もそんな子どもたちです。

二人が住むヴィエンチャン県ムーン郡は、首都の中心部からいくつもの山を越えて車で5時間、海拔300メートルほどの田畑の多

い丘陵地です。二人は、郡の中心から車で30分ほどのナムブーン中等学校に通っています。「ラオスの子ども」は、2年前、この学校で図書室の開設の支援を行いました。チュン君とチェン君はほとんど生徒は、教科書以外の本と図書室で初めて出会いました。それ以来、読書の楽しさを知った二人は、毎日図書室に通うようになりました。2年生になると、図書ボランティアに立候補。他の生徒たちと一緒に、本の貸出や整理など図書室の運営を担っています。

二人は図書室だけでは本を読み足らず、本を借りて家でも読んでいます。1冊借りて読み終わるとすぐに次の本を借りて、昨年10月、チュン君は17冊、チェン君は16冊の本を借りました。二人を育てているおばあさんは、

「学校に図書室ができてから、チュンとチェンは家でよく本を読むようになった」

と、彼らの変化を喜んでいます。



図書ボランティアの仕事のときは真剣な顔になります。

本は勇気をくれる

おばあさんと暮らす二人の両親は、彼らが2歳のときに離婚し、それ以来、お父さんとは音信不通、お母さんはタイに出稼ぎに行っていて、年に一度の帰省のときしか会えません。親がいない寂しさを味わう二人は、『カンパー（孤児）と歌うジャコウネコ』というラオスの民話の絵本から勇気をもらっています。絵本の主人公、みなしごの青年トンには心優しさともじめさで幸せを引き寄せます。

「トンたちが村の人を喜ばせるシーンがカッコよくてわくわくする！ぼくたちもトンみたいに優しく立派な大人になりたい！」と、二人はお気に入りの本の主人公に自分たちを重ねています。



大好きなおばあちゃんと。

たくさんの本を届けたい！

お気に入りの本と出会うと、子どもは楽しみながら自ら学んでいくことができます。そして、自分に自信が持てるようになります。本との出会いが、こんなにも子どもたちを変えることを目の当たりにして、さらにたくさんの本を届けたいと強く思いました。

(政岡史織／ラオス事務所)

勇気がわく本との出会いを、
もっと多くの子どもたちに届けたい。
冬募金にご協力を！

「人気の絵本4タイトル10,000冊を出版！」。当会は冬募金を呼びかけています。1月25日までに合計422,400円ご寄付いただきました。心から感謝いたします。目標は2月28日までに150万円です。ご協力お願いします。

【ご寄付の送金先】

①郵便振替

00140-6-462494 ラオスのこども
※通信欄に「冬募金」とご記入ください。

②ゆうちょ銀行

店番：019 預金種目：当座
店名：0一九（ゼロイチキウ店）
口座番号：0462494 口座名義：ラオスノコドモ

③三井住友銀行

店名：荏原支店（エバラシテン）
口座番号：普通 1086564
口座名義：特定非営利活動法人ラオスのこども
※②③銀行振込をご利用の方は、お名前、住所、「冬募金」指定の旨を事務局までご連絡ください。

④クレジットカードのご利用

「ラオスのこども」ホームページ
<http://deknoylao.net>からお入りください。

はじめる・つながる・つく

「折り紙を授業にとりいれよう」 ワークショップ第二弾

ラオスにはない「折り紙」を習いたいという要望に応え、当会が出版した本を使い、昨年度ヴィエンチャンで「折り紙ワークショップ」を実施したところ、たいへん好評でした。その第二弾を中部のカムワン県タケークで2016年11月に行いました。



まずは簡単なものから挑戦。折り紙の本が手引きになります。

小学校から34人、幼稚園から6人、計40人の先生が参加。2回に分けて、3日間の日程で実施しました。講師は当会現地スタッフ3人が務め、身近に手に入る紙を使ってすぐに活動できるように、紙を正方形にカットするところから実践的な指導をしました。

折り紙は初めてという先生が多く、最初のうちは、ひとつ折るのにも時間がかかりましたが、子どもたちに教えたいと、皆熱心に取り組んでいました。鳥、魚、シャツ、星など作品を作るうちに作業も早くなり、3日間で40作品を学びました。人気はバラやユリなど花シリーズ。「鉛筆」の折り方を習ったところ、「様々な色で折って、英語の授業で色の表現を教えるのに使ってもいいね」と活用法のアイデアを出す先生もいました。



きれいなお花が完成。早く子どもたちに教えたい！

ラオスでは教育内容の改善のためにカリキュラムが改訂されてきていますが、現場の先生方は、自ら学んだ経験がない図画工作や英語などを教えねばならず、道具も十分に揃わない中、頭を悩ませているとのこと。

ナンタサイ副教育局長は、閉会式のあいさつで、「折り紙は、紙とハサミがあればできる活動で、様々な応用もできますね。研修を受けただけでは終わりにせず、学校や幼稚園に帰ってからの活動にしっかり生かしてください」と激励していました。

<ご支援：キヤノン株式会社>

<出版プロジェクト>

コンクール入賞作品を出版

紙芝居『スックおじさん』

1,500部 初版

作：サミッター・ムンアーアサー

画：サワンサイ・スワンペン

ご支援：学習院女子大学、出版指定募金



2014年箕面手づくり紙芝居コンクールで、一般の部の特別賞「大阪国際児童文学振興財団賞」を受賞した作品。ラオスらしい果物がでてきて、まとまりのあるストーリーで面白い

と好評で、ラオスで出版しました。

スックおじさんは動物たちと川下りをしていたところ、ボートがひっくり返ってしまいました。あちらこちから鳴き声が聞こえます。おじさんは鳴き声と目印の木を頼りに、動物たちを探し出し、ボートに乗せていきます。「ブーブー鳴いているのは誰?」「何の木の下にいるかな?」聞き手に問いかけ、やりとりをしながら楽しくストーリーが進んでいきます。

ついにラオス語版が完成

宮沢賢治童話集

『風の又三郎 注文の多い料理店 セロ弾きのゴージュ』

『銀河鉄道の夜 雨ニモマケズ』

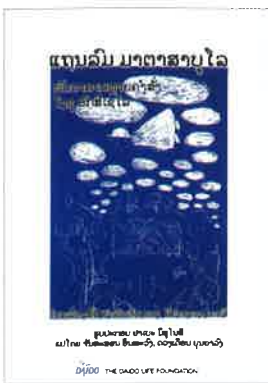
各3,000部 初版

挿絵：やべみつり

翻訳：チャントソン・インタヴォン、ドゥアンドゥアン・ブンニャヴォン

ご支援：大同文化生命国際文化基金

宮沢賢治の童話がラオス語で初めて出版されました。作品の独特の表現や世界観を翻訳するのはとても難しいものがありました。ラオス語と日本語の翻訳・通訳経験の長い当会代表のチャントソンとラオスの作家ドゥアンドゥアンさんのコンビが4年の歳月をかけ、ようやく完成しました。ラオスの子どもたちからはどんな感想が出るのでしょうか。もうすぐ様々な学校の図書室に届けられます。



『銀河鉄道の夜 雨ニモマケズ』

『風の又三郎 注文の多い料理店
セロ弾きのゴージュ』



リコーダー、ダンス。子どもたちと学生で

8月12～27日、小中学生向けにリコーダー、ダンスなどの教室を日本の学生8人で実施しました。子どもたちに自己表現の楽しさ、協力してひとつのことをやり遂げる大切さを感じてもらい、保護者の前で発表することで大人にも情操教育の大切さを知ってもらいました。午前は「ラオスのこども」の図書室、午後は「ヴィエンチャン子ども教育開発センター(CEC)」で、それぞれ約2時間、日ごとにリコーダー、ダンス、合唱、合奏を決めて練習しました。

リコーダーの練習では経験者の子どもがわからない子に教えていました。二重奏にも挑戦しました。ダンスは、「ドラえもん音頭」。ラオスでも人気のキャラクターで、親しみやすかったようです。合唱は「上を向いて歩こう」を歌いました。日本語で歌うので難しいとは思いましたが、すぐに覚え、皆で手を繋いで体を揺らしながら楽しそうに歌っていました。合奏は身近にあるものを使って楽器を作りました。楽器を叩いたり揺らしたりして音を出す度に喜んでいました。

発表会は成功に終わり、保護者の方々も喜んでくださいました。私自身、子どもたちから多くのことを学び、一生忘れられない宝物ができました。子どもたちの将来に繋がるきっかけとなることを願っています。(佐久間理子/学習院女子大学)



今日はダンスの日

ラオスのこどもカレンダー2017

「なんのどうぶつ?～文字絵本～」

当会が1997年に出版した「なんのどうぶつ?」は、就学前の子どもたちが楽しくラオス語の文字を学べる、人気の絵本です。ここから12の動物を選びカレンダーをつくりました。大変好評で約1,000部お買い上げいただきました。



「ラオスのお子さんたちが絵本で楽しく豊かな時間を過ごせますように」、「遠くからですが応援しております」などメッセージをお寄せいただきました。カレンダーは残りわずかです。引き続きご協力お願い致します。

「ラオスのこども」の仲間たち

「やりたかったことは、これだ！」

バンロップ/ラオス事務所スタッフ

「中高生の頃、毎週末、ここに通っていたなあ。本当に楽しかった!!」

車で旧事務所の前を通りかかった際、運転していたスタッフのバンロップが、ふいに言いました。今の事務所に移転



子どもたちと劇あそびをするバンロップ(右端)

したのは6年ほど前。旧事務所も現在と同様、子ども図書室を併設し、土日でもオープンして、読書だけでなく、歌や踊り、図画工作など、児童館のような活動をおこなっていました。彼は、そんな私たちの事務所の図書室の利用者でした。

「どんな活動が楽しかった？」

「読み聞かせや劇とか、歌ったりとか、いろいろな工作も面白かったな・・・、とにかく全部楽しかったよ。他ではできないことばかりだったからね」

バンロップは、2013年にスタッフに加わり、学校図書室の開設やフォローアップ活動を実践しながら経験を積み、今では現場活動には欠かせないスタッフです。

彼がスタッフになったきっかけを聞きました。

大学を卒業し広告関係の仕事をしていたけど、自分のやりたいこととは違っていると感じていたある日、「ラオスのこども」の求人広告をみかけました。こういう仕事があるとは思ってなくて、でも、広告をみた瞬間に、「自分のやりたかったことはこれだ！」と思い、即応募しました。

紙芝居やブックトークなど図書室での子どもとの活動はなんでもできる「バンロップお兄さん」。彼の周りにはいつも子どもたちが集まります。それもそのはず、楽しいゲームをいろいろ知っているだけでなく、ゲームをするときはいつも本気で子どもと勝負します。自分も一緒に楽しむからこそ、子どもたちも一緒に楽しむことができます。

そして、彼自身が読書の楽しさを知っていて、本を通じて世界が広がったひとり。だからこそ、実感をもって、本の楽しさを伝えることができるし、その思いは子どもたちに届くのでしょうか。

表紙の写真

休日には、片道2時間かけて山道を歩き畑へ行き、唐辛子の収穫をしているチュン君とチュン君。収穫した唐辛子は、この大きな袋に入れて、こんな風に頭にひっかけたり、肩にひっかけたりして、持って帰ってくるんだよ、と実演してみせてくれました。持ち帰った唐辛子は、小袋に分けて、近所の家々をまわって売り歩きます。

特定非営利活動法人ラオスのこども

組織の理念「ラオスのこども」は、公正で平和な社会づくりに貢献することを目的として、子どもたちが自らの力を伸ばし、人生を主体的に選択できるよう、日本とラオスの人々が協働しながら、読書に親しむ環境をつくります。

ラオスのこども通信 68号

2017年2月発行 編集人: 森 透
発行: Action with Lao Children / DeknoyLao
(認定) 特定非営利活動法人 ラオスのこども
〒143-0025 東京都大田区南馬込6-29-12 ミキハイツ303
TEL/FAX 03-3755-1603
e-mail: alctk@deknoylao.net
http://deknoylao.net
都営地下鉄浅草線 西馬込 南口下車 徒歩7分
郵便振替 00140-6-462494

メコンのほどり糸

丈夫、便利、どこでも使える、どこでも編める、
葛糸のバッグ

北部のルアンナムターの山間の村で、片側に糸が巻かれた棒とネットのようなものを手にするおばあちゃんたちに会いました。

見せてもらうと、葛糸(葛の蔓の皮を細かく裂いてひねったもの)を1本の棒で袋状に編み上げて、持ち手付きのバックを作っています。葛糸の丈夫さに加え、ネット状の独特の編み方によって、見た目は小さいのに驚くほど伸びて丈夫なバックができあがります。

そのバックを使っている姿もよく見かけました。険しい山道を歩くための工夫なのでしょうか、持ち手を頭にひっかけて、



荷物を背中側に乗せて運ぶのが特徴です。そのため、持ち手部分が少し長くなっており、収穫物や市場で購入したものをたくさん詰めて、頭にかけて、持ち歩いていました。

また、この編み物は、おばあちゃんたちが座ってのんびりとやるだけではありません。忙しい女性たちは、立ったままでも、空いた時間には手を動かし、作業をしないときには、結わえた髪に、編み棒をかんざしのように挿して、作りかけの袋を頭の上に乗せて、そのまま歩いていきます。山道を移動する際には、歩きながら編み物をしている女性もみかけました。生活と結びついている手仕事です。(赤井朱子/東京事務所)